



# 権を考える

市民一人ひとりの人権が尊重された  
心豊かな地域社会を目指して

生涯学習・文化財課  
生涯学習スポート振興係 TEL 23-11259

市では、「長門市人権教育推進委員会」を中心として、市民一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会の実現に向け、地域に密着したきめ細かい人権教育・人権啓発活動を推進しています。

## すべての人権課題の解決に向けて

今年度は、「山口県人権推進指針」に掲げられている人権課題の解決に向けた取組を念頭に、人権教育セミナーと人権フェスティバルにおいて幅広く人権課題を扱うことで啓発に努めました。

本市においても、さまざまな人権課題が存在します。また、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大によって、いわゆる「コロナ差別」といった新たな人権課題も見られるようになりまし

このような状況を踏まえ、すべての人々の人権が尊重された社会の実現を目指していくためには、市民一人ひとりが人権尊重の理念について正しく理解し、日常生活において人権への配慮がその態度、行動に表れるような人権感覚や、人権の大切さに気付く豊かな感性を育むことが重要です。

本市では、身近にある人権課題の現状把握や課題解決に向けた具体的な対策について研修を深めるため、各種人権教育セミナーや人権フェスティバルの機会を活用して、積極的に市民への啓発に取り組んでいます。

## 令和2年度活動報告

### 長門市人権教育セミナー

- 開催日 9/12(土)
- 場所 長門市しごとセンター
- 参加者 約40人

ビデオ「ほんとの空」から考える「意識と人権」をテーマに参加者意見交換会を実施しました。未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない不安な状態が続いています。目に見えない恐怖が、不確実な情報のはらんを招き、誤った考え方や思い込み、さらには偏見という人間の意識に起因する新たな人権課題も引き起こしています。



▲ビデオフォーラムの様子

不安な状況下では、誰もがそうした差別の加害者にも被害者になるとともに、改めて自分自身の言動について振り返る機会となりました。

### 新型コロナウイルス感染症 人権に配慮した冷静な行動を

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、いつ感染するかかわからず、不安や恐れを感じる人も多いと思います。

そんな中、感染した人やその家族、施設の人たちに対して、インターネットやSNS上でひぼう中傷をはじめとした心無い言動が広がっています。

不安や恐れから、誰かをひぼう中傷、排除、差別することは決してあってはなりません。

自らの行動で、誰かを傷つけることがないよう、相手の立場になって考え、思いやりをもった冷静な行動をお願いします。

### 長門市新型コロナウイルス感染症の患者等の人権の擁護に関する条例

#### ■基本理念

- ・感染症の患者などの人権を最大限に尊重することとします
- ・感染していること、感染しているおそれがあること、または感染していたことを理由として、不当な差別、偏見、ひぼう中傷などで人権を侵害してはいけません

●開催日 11/8(日)

●場所 ラポールゆや

●参加者 約210人

山口県人権啓発活動地域ネットワーク協議会による「人権の花」の表彰、長門保護区保護司会の活動紹介の後、元・夜間中学校教諭の松崎運之助さんに講演をいただきました。

松崎氏は、江戸川区立小松川第二中学校夜間部の教諭としての取組が、映画「学校」のモデルになり、現在も執筆や講演活動などで活躍されています。

先生の貴重な経験をもとに、「生きるとは何か」、「学びとは何か」などについて、多くの示唆をいただきました。また、当日は菱海中学校も人権学習参観日のプログラムとして、全校で講演会に参加しました。



▲「命の光を大きく輝かせるために～私の「夜間中学」教師体験記～」で講演した松崎運之助さん

## 参加者の声

### 長門市人権フェスティバル

▶恵まれた環境しか見えていない私たち。苦しさ、悲しさ、辛さの中でも喜びを感じてこられた先生のお話を聞くことができ、子どもや生徒を大切にすることを学びました。長門の子どもを大切にしないと

▶夜間中学の生徒みたいに、悩んでいるときにほめ



▲人権の花表彰

られたら、嬉しくなるのかなあと思いました。学校でも困っている人がいたら、ほめ言葉にこだわらずに、一声かけてあげたいと思いました。

### 長門市人権教育セミナー

▶たくさんの方々と人権について意見交流ができる良い時間だったと思います。外見で人を判断しがちなことが多い社会ですが、まずはコミュニケーションをとり、知ることが大切だと思いました。

▶人種、外見、出身、同和問題など自分勝手な偏見で相手を不快にさせることがあります。すべての人が平等であるはずが、優劣をつけようとしていることがあります。知らないから怖いという人の心の弱さが差別、偏見につながっていると感じました。



▲意見交流会

## 相手も自分も尊重し、心豊かな社会へ

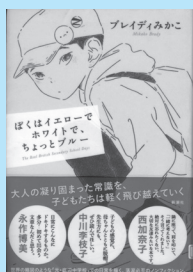
長門市立図書館司書  
オススメ作品を紹介

私たちは日々を過ごす環境の中で、自分と人を比べていることがあります。また、社会の変化によって人権に関する新たな課題もみられるようになりました。まずは人権問題に関心を向けること、気付くことから始めてみませんか。



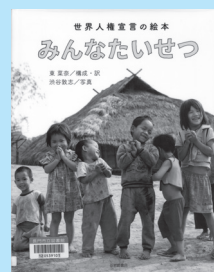
『学校』

© 1993 松竹株式会社 / 日本テレビ放送網株式会社 / 住友商事株式会社



『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

ブレイディ  
みかこ / 著  
新潮社



『みんなたいせつ世界人権宣言の絵本』

東菜奈 / 構成・訳、渋谷敦史 / 写真  
岩崎書店

人権フェスティバルの講師、松崎運之助さんが主人公黒井先生のモデル。

夜間教育に情熱を傾ける黒井先生が、読み書きができないイノさんや元不登校児のえり子など訳ありの生徒たちの痛みや苦しみを受け止め、励ましながら授業を進めていく。

中学生の「ぼく」のリアル。これは「ぼく」だけに起こることではない。多様化の時代を生きる私たちに求められるのは「異なる価値観を受け入れる」心の成熟ではないだろうか。

「ぼく」の姿勢に「あなたならどう考える？」そんな声が聞こえてくる1冊。

「わたし」はこの世界で唯一無二の存在、だからくみんながってみないい。

終戦後の1948年、公式に初めて基本的人権を認めた「世界人権宣言」に込められた願いが叶う世界は実現してきただろうか。全30条を世界の国々の写真とわかりやすい言葉で綴った絵本。